

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人大分大学

## 1 全体評価

大分大学は本学憲章に則り、国際化が進む社会及び地域のニーズに的確に対応できる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、大分県唯一の国立大学として「大分創生」を目指し、これまでに蓄積してきた知的資源を最大限に活用した教育・研究・医療・社会貢献活動を積極的に展開し、もって地域活性化のための「知」の拠点としての機能の高度化を推進することを目指している。第3期中期目標期間においては、社会が求める高い付加価値をもった人材の養成、「知」の拠点としての機能の高度化、新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学の経営の実現を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、大分大学STEAM Lab.を教育学部内に設置するとともに、アジア諸国への幅広い医療人材育成及び医療支援といった取組等を効率的に行う組織として、国際教育研究推進機構(In - GEAR)及び国際医療戦略研究推進センター(GO - MARCH)を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について)

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

大分県をはじめとする子育て支援満足度の向上等、国内の子育ち・子育て・若者支援等における権利擁護の質の充実を図るための教育研究等を通し、我が国の重要課題である地域共生社会の実現に寄与することを目的として権利擁護教育研究センターを設置し、(1)子ども及び若者の権利擁護に関する調査・研究、(2)総合的及び多角的な支援の実践、(3)専門職及び地域住民に対する研修・啓発活動、(4)高度な専門性を持った人材の養成、(5)その他センターの目的を達成するために必要な事項といった業務を行うこととしている。(ユニット「『地域包括ケアシステム』を支える教育・研究拠点の創生」に関する取組)

## 2 項目別評価

&lt; 評価結果の概況 &gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
( 1 ) 業務運営の改善及び効率化						
( 2 ) 財務内容の改善						
( 3 ) 自己点検・評価及び情報提供						
( 4 ) その他業務運営						

## . 業務運営・財務内容等の状況

## ( 1 ) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載20事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## ( 2 ) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## 財源の多元化と社会貢献活動の取組

財源の多元化と社会貢献活動の取組として、病気等でウィッグを必要とする子供たちを支援するための社会貢献型自動販売機（ヘアドネーション支援自動販売機）を国立大学では初めて設置している。これにより、売上金の一部が事業者から大学に納入されるとともに、事業者を通じNPO法人に売上金の一部が寄附されることとなっている。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

評価の充実 情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。**(4) その他業務運営に関する重要目標**

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**(理由)** 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

**研究費の不適切な経理**

研究費の不適切な経理が確認されていることについては、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組が行われているが、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが望まれる。

・教育研究等の質の向上の状況
----------------

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

#### STEAM教育の活動拠点の形成

教員養成における学生教育や教養教育改革をはじめ、地域貢献の役割を担うために、大分県の各学校園や、行政、企業・団体、NPO法人、教育委員会等と連携してSTEAM教育の活動拠点を形成し、その普及を目的として大分大学STEAM Lab.を教育学部内に設置している。

STEAM教育とは、Science（サイエンス：科学）、Technology（テクノロジー：技術）、Engineering（エンジニアリング：工学）、Arts（アート：芸術、教養）、Mathematics（マセマティクス：数学）等の各学問領域を関連分野と統合し、想像的・創造的なアプローチで問題解決を行ったり、新たな価値を創造したりする能力の育成を目指す教育。

#### 附属病院関係

##### （教育・研究面）

##### 認知症疾患にかかる臨床研究

認知症先端医療推進センターが中核となり、PET（Positron Emission Tomography：陽電子放出断層撮影）診断技術に関する研究や産学官連携による認知症の新規治療法の開発に取り組むとともに、製薬企業及び電子部品企業とともに横断的・縦断的データ解析による本診断システムの臨床活用に向けた共同研究を開始するなど、認知症疾患等にかかる高度医療・先進医療を推進している。

##### （診療面）

##### 多職種連携や関係医療機関との連携の強化

受付対応基準の見直しによる入院前支援業務の充実や、医師や薬剤師、リハビリセラピスト等の多職種連携の強化を図り、入退院支援加算の安定的な算定につなげるとともに、関係医療機関との連携強化の検討を開始するなどの結果、患者紹介率が87.4%、逆紹介率が74.5%となり、目標を上回る数値が達成されている。

##### （運営面）

##### 女性医療人キャリア支援センターにおける女性医師等キャリア支援

令和元年、附属病院と県下医療機関が協力して「キャリアサポートブック」の作成をするなどの取組について令和元年12月に開催された日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合共催による「令和元年度女性医師支援担当者連絡会」において、大学の取組として事業を報告するなど、女性医師等のキャリア支援に取り組んでいる。